

まちづくりシンポジウム 2022

「サステナブルなまちづくり」
～ どうする！コンパクト・プラス・ネットワーク ～

主催：茨城県・境町・茨城県都市計画協会



茨城県では、県民のまちづくりに対する意識の向上を図るため、茨城県都市計画協会及び地元市町村との共催で、昭和61年度より「まちづくりシンポジウム」を開催しております。

今年度は、「住み続けられるまち」の実現を目指して、自動運転バスの定常運行等を行っている境町を会場に、令和5年1月12日（木）に境町中央公民館でまちづくりシンポジウムを開催しました。

「サステナブルなまちづくり～どうする！コンパクト・プラス・ネットワーク～」をテーマとして、交通も含めた新たな持続可能なまちづくりのあり方を考えていきました。

また、まちづくり・景観等に対する県民の意識の高揚と、まちづくり活動促進のため、モデルとなるような団体・取組を表彰する「第5回チャレンジいばらきまちづくり表彰式」を行いました。

当日は、県内外から約360名の方にご来場を頂いたほか、後日アーカイブ配信も行いました。



今回のまちづくりシンポジウムのアンケート結果を見ると、特にパネルディスカッションについて非常に関心が高い傾向があり、境町の各種の取組が参考になったとの声や、これからのまちづくりを知ることができたとの声等、様々な感想が寄せられました。

■ 第5回チャレンジいばらきまちづくり大賞表彰式

はじめに、第5回チャレンジいばらきまちづくり大賞表彰式が行われ（表彰内容は5ページにて紹介）、三鉄ものがたり実行委員会を代表して佐藤久彰様と、小美玉市を代表して小美玉市都市建設部長 小島謙一様に表彰状が授与されました。



■ 基調講演『境町で考えるコンパクトなまちづくり』

【講師】谷口 守 様(筑波大学システム情報系社会学域教授)

谷口様からは、今後のまちづくりのあり方について、コロナにおける動向も踏まえた現状と今後の方向性についてご講演いただきました。

最近の都市の動向として、特にコロナ後においては、人々の暮らし方が大きなまちに行かなくなり近いところで済むようになったこと、住民の意識が「屋外空間の充実」「(自転車や徒歩の)回遊空間の充実」を望む人が増えてきていることについて解説をいただきました。



谷口守様

また、まちづくりのトレンドについても、現在の生活利便性と地域経済を重視する傾向から、今後は「健康・福祉のまちづくり」が伸びるのではないかとということもご指摘いただきました。



これらを踏まえた都市政策のあり方として、交通ネットワークの充実をセットとしたまちづくりが求められており、境町のような鉄道のない自治体でも、15分都市圏（歩いて生活できるまち）や、道路拠点型コンパクトシティを目指してトランジットモールを導入するなど、サステナブルなまちを維持するための方策についてご提言いただきました。



■特別講演『境町における公共建築とこれからのサステナブルなまちづくり』

【講師】隈 研吾様(建築家)

隈様からはビデオにてお話をいただきました。国立競技場の設計事例、次いで「茶蔵」や「S-Gallery」といった境町における設計事例をご紹介いただき、その地域の特色や木などの自然素材の生かした建築のあり方や、コロナ後の都市のあり方についてご提言をいただきました。



隈研吾様(ビデオ出演)



■パネルディスカッション『サステナブルなまちづくり』

【コーディネーター】

谷口 守 様(筑波大学システム情報系社会工学域教授)

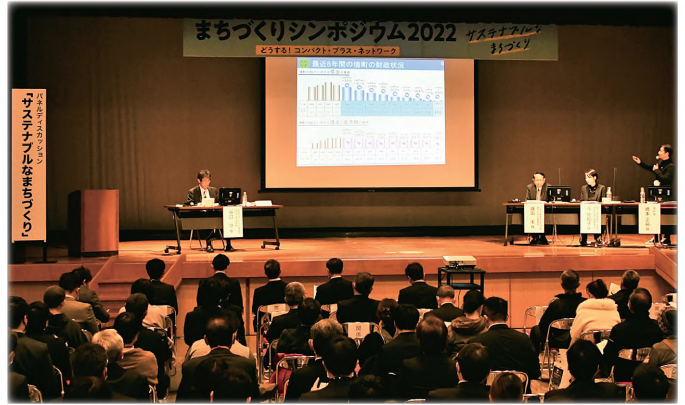
【パネリスト】

鎌田 実 様(日本自動車研究所所長・東京大学名誉教授)

饗庭 伸 様(東京都立大学都市環境学部都市政策学科教授)

今 佐和子 様(国土交通省関東地方整備局建設部都市整備課長)

橋本 正裕 様(境町長)



パネルディスカッションでは、「サステナブルなまちづくり」をテーマに、各パネリストから自身の取組内容や今後の方向性についてご発言いただき、その後、谷口コーディネーターとパネリストによる議論が行われました。

橋本町長からは、住民の皆さんに、将来にわたって持続可能なまちにする説明責任があるということから、就任以来、財政再建、人口増加、ひとの創生の三つの柱で取り組んできたということについてご説明いただきました。そして、その一つの例として、高齢化による免許返納の影響を解決するために、最新技術による自動運転バスを導入したことなど、施策を踏まえたお話がありました。

鎌田様からは、境町の自動運転バスは無料であることがポイントであること、将来のモビリティについては、早急なマイカーの完全自動運転は不可能と考えられ、MaaSを基に幹線交通



橋本正裕町長



鎌田実様

を維持し、末端交通については共助による低速電動車が基本になるのではというお話がありました。

今様からは、「都市の本質は交流」ということで、まちなかを出会いの場所と捉え、ウォークアブル、アイレベル、ダイバーシティ、オープンな取組を頭文字にした「WEDO」が今後まちづくりに大事ということ、境町はまちなかに様々な資源があり歩きたくなるまちになる要素があるとのお話がありました。

饗庭様からは、急遽ビデオでのご出演となりましたが、まちづくりの実



今佐和子様



饗庭伸様(ビデオ出演)

現のために、目標（都市計画マスタープラン）と実現手段をきちんと示すこと、目に見える取組を行うこと、土地利用の効果測定と必要に応じた都市計画の見直しを進めることが大事というお話がありました。

パネリストの皆さんの発言を受けたディスカッションや会場からの質問においても、まちづくりの取組に対するハードルの乗り越え方や、これからのサステナブルなまちを目指すうえでのまちづくりのあり方、コンパクトなまちの考え方について、活発な議論が交わされました。



シンポジウムの様子はこちら ⇒
(令和6年3月末まで公開)



まちづくりシンポジウム 2022 特集

令和4年度まちづくりアワード(功労部門) まちづくり功労者国土交通大臣表彰 ～ 茨城県から境町が受賞 ～

国土交通省では、毎年6月の「まちづくり月間」の実施にあわせて、従来の「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」にかわり、都市における種々の課題解決や良好な環境の創造、地域の価値向上を図る先導的な取組、新技術を活用した先進的な取組、従来に無いアイデアによる魅力的な取組など、まちづくりのあらゆる取組の中から特に優れたものを表彰する「まちづくりアワード」を令和4年度より創設しました。

本年度は、魅力あるまちづくりに功績のあった個人または団体を表彰する功労部門で全国から19団体が受賞し、茨城県からは境町が受賞しました。

令和4年6月14日(火)に国土交通省において表彰式が行われ、齊藤鉄夫国土交通大臣より橋本正裕境町長に賞状と副賞が授与されました。

■ 功績概要

道の駅さかい～河岸の駅さかい区間などの自動運転バス運行やまちなかウォークアブル推進事業による誘導案内表示等により、まちなか周遊ルートを確保し、まちの賑わい創出に貢献しました。

